

ひざを突き合わせ 協働のまちづくりを考える

～平成21年度地区懇談会～

平成21年度の地区懇談会（市主催）が、10月9日（金）の鷺別地区連合町内会との懇談を皮切りにスタートしました。

この懇談会は、まちづくりについての意見や地域が抱える問題などについて、市民と市の職員が懇談を行うとともに、地域や市が取り組んでいることなどについて、情報を共有することを目的に、毎年開催しているものです。

この日は、鷺別公民館に地域の住民と市職員約50人が集まり、『宅地開発に伴う交通安全対策』など3つの懇談のテーマについて、市の考え方や対応などを説明しました。

また、地域住民の方からは、まちづくりや市政を良くしていくための貴重な意見や質問が出されるなど、協働のまちづくりに向けて、市民と市職員がひざを突き合わせ、活発な議論がなされました。

最後に、市から『広域連携のまちづくり』や『パブリックコメント制度の概要』、『新型インフルエンザ感染の現状』、『議会フォーラムからの行政要望』、『防火安全対策調査・普及事業』などについて情報提供を行いました。

この懇談会は、11月中旬まで、各地区の連合町内会を単位に、10回開催します。



▲防火安全対策調査・普及事業の説明

木のおもちゃってあたたかいね

～木と森のあそび場～



9月21日（月）～23日（水）のシルバーウィークの3日間、ふおれすと鉱山で『木と森のあそび場』（モモンガくらぶ主催）が開催されました。

この催しは、普段触れる機会の少ない木のおもちゃと触れ合い、木の持つ自然のぬくもりややさしさを感じてもらうことを目的に、今年で4回目の開催となります。

館内には、木馬や木のプール、積み木、木のお家など、たくさんの木のおもちゃが集まり、子どもたちはいつもとは違った木のおもちゃを使って目いっぱい遊んでいました。

また、屋外では、森の中でスタンプラリーを楽しんだり、森のカフェでマシュマロを火であぶって食べたりして、秋の訪れたふおれすと鉱山で自然を満喫していました。

地元食材でおいしく安全な学校給食を

～『さら貝』を使ったカレーライスを提供～

9月30日（水）、地元で採れた『さら貝』を使ったカレーライスが、市内の小・中学校に給食として出されました。

これは、地元の食材を積極的に給食に取り入れることを目的に教育委員会が試みたものです。

『さら貝』は、7～9月に地元で水揚げされる大きさ5センチメートルほどの二枚貝で、血圧やコレステロール、血糖値が高い方に効果がある『タウリン』や『グリシン』、『アラニン』といったうまみ成分が多く含まれています。

カレーライスに入れた『さら貝』は、バターと白ワインで炒め、最後にルーの中に入れることで、魚介類が苦手な子どもにも食べやすく工夫されています。

この日伺った幌別小学校では、給食を食べた子どもたちから「おいしいね」という声と笑顔が教室に広がりました。



▲さら貝のカレーライスを味わう子どもたち